

# 日本経営倫理学会会報

JAPAN SOCIETY FOR BUSINESS ETHICS STUDY

## 2018年9月度研究交流例会開催報告

田中敬幸（高崎商科大学 商学部・准教授）

9月15日に開催された研究交流会にて、SBE（Society for Business Ethics：米国経営倫理学会）年次大会の参加報告をさせていただきました。SBEの年次大会の中で、特に印象に残ったセッションを中心に報告をさせていただきました。

CSR and Stakeholders Through the Looking Glass : The Effect of Corporate Social Responsibility/Irresponsibility on Stakeholders & Stakeholders' Effect on CSR と題するパネルは、最も印象的なセッションでした。ここでは、CSRの議論を、CSRとCSiRという2つのキーワードが使われて議論が進んでいきました。このパネルディスカッションでは、CSiRを企業の無責任な行動というニュアンスで議論していました。企業不祥事というよりも、責任ある行動が果たせていないという使われ方でした。このCSiRという概念を使って企業行動を説明することは、大変勉強になりました。また、ステークホルダーの責任についても議論され、「投資家や消費者は、どちらかという受け身」とあるという議論がなされました。企業の何らかのアクションの後に、投資家や消費者は、行動を起こすということです。それに対して、「コミュニティは、企業に継続的に影響を与えることができる」という話がありました。CSRを巡る環境の変化については、2000年代と現在を比較すると、ソーシャルメディアの発達によって、ステークホルダーの力が増大したという議論がなされていました。

Whistleblowing and Moral Residue のセッションでは、Whistleblower（内部告発者）が抱える葛藤について、Remorse（良心の呵責、自責の念）という言葉が使われていました。内部告発者は、会社に対する「忠実義務」と「公益」といったコンフリクトに直面するというものでした。

The Sarbanes-Oxley ACT of 2002: Relationship to Magnitude of Financial Corruption and Corrupt Organizations のセッションでは、SOX法が金融に関する不祥事を抑制しているのかを検証するものでした。この発表での主張は、SOX法が施行されたことで、同法を犯すことが企業にとって不合理になったため、不祥事の件数が減っているということでした。施行前と施行後での金融に関する不祥事の発生件数で比較検討するという方法論でした。

今回、研究交流会にてSBEの年次大会の参加報告をさせていただいたことで、それぞれの研究発表を振り返ることができました。発表の機会をくださった梅津先生をはじめ関係の先生方には、感謝申し上げます。

SBE 年次大会のようす



## 第8回 CSR 構想インターゼミナールの開催報告

常任理事 高野 一彦（関西大学社会安全学部 大学院社会安全研究科・教授）

本年10月13日（土）に東京都北区にある中外製薬株式会社浮間事業所会議室において、中外製薬株式会社様の特別協賛を頂き、第8回 CSR 構想インターゼミナールを開催した。今回は、「ヘルスケア産業における CSR 活動の可能性と課題」を共通テーマに掲げ、5月より参加ゼミを募集してきた。申請書には所属ゼミの紹介と発表概要の詳述を求め、9月末に応募受付を締め切った。事務局の審査を経て、7大学7ゼミにご登壇いただいた。参加大学・ゼミ名、発表テーマ、発表順は以下のとおりである。

- ① 関西大学 高野一彦ゼミ「企業の長期的な災害支援における一考察～東日本大震災のケース分析を受けて」
- ② 帝京平成大学 小方信幸ゼミ「栄養バランスのよいジャンクスナックによる子供の健康問題改善の提案」
- ③ 南山大学 高田一樹ゼミ「電子タトゥーで健康を見える化する～ウェアラブル・センサーを利用したヘルスケアビジネスの近未来～」
- ④ お茶の水女子大学 斎藤悦子ゼミ「花王社員へのインタビューから考える、健康経営の課題と可能性～女性が働きやすい環境を実現」
- ⑤ 東北大学 高浦康有ゼミ「東北地方における高齢者の健康支援の可能性」
- ⑥ 跡見学園女子大学 宮崎正浩ゼミ「オーガニックコスメの現状と普及策」
- ⑦ 慶應義塾大学 梅津光弘ゼミ「各製薬会社の CSR 活動の比較と展望～ドローン事業との連携提案」

10月13日10時から発表大会を開始した。会場には、学生と教員、審査員、中外製薬の社員あわせて100名弱が集った。各大学のゼミ生は自己紹介を行い、15分間の研究発表に臨んだ。発表後には10分間の質疑応答を行った。同時にポスター・セッションを実施し、研究内容を1枚の模造紙にまとめ、会場の壁面に掲示した。昼休みの時間帯には学生がポスターの説明を行い、他の学生や教員と質疑応答に臨んだ。

審査の結果、最優秀賞をお茶の水女子大学 斎藤ゼミ、優秀賞を、南山大学 高田一樹ゼミ、佳作を帝京平成大学 小方信幸ゼミ、ポスター賞をお茶の水女子大学 斎藤ゼミが受賞した。大会後には、中外製薬株式会社浮間事業所の食堂をお借りして懇親会を催した。今回も盛会のうちに幕を下ろした。末筆ながら、日本経営倫理学会、及び中外製薬株式会社による本インゼミへの支援に深謝を申しあげる。



## 第 10 回経営倫理シンポジウムのご案内

理事・シンポジウム実行委員長 小方信幸（帝京平成大学 現代ライフ学部・教授）

日本経営倫理学会では、2019年1月30日に「わが国のESG投資の現状と展望」のテーマで、第10回経営倫理シンポジウムを開催します。わが国のESG投資は、2015年9月の年金積立金管理運用独立法人（GPIF）による国連・責任投資原則への署名表明が契機となり一気に拡大しました。その市場規模は、2017年3月末時点で136兆円という報告があります。従来のSRI市場は1兆円未満の規模であったことを考えますと、わが国の資産運用市場は急激に変化し拡大しているようにみえます。しかし、短期間で急拡大しているだけに課題も多いと考えます。

このような状況を踏まえ、シンポジウムでは、ESG投資を持続的に発展させるための課題と施策を議論いたします。青山学院大学大学院教授の北川哲雄先生とアムンディ・ジャパン株式会社・ESGリサーチ部長の近江静子氏の基調講演に続き、パネルディスカッションでは基調講演者のほかに、企業のCSR部門責任者2名とESG投資に取り組むファンドマネジャーの方に参加いただき、テーマに沿った議論を進めます。BERC会員の皆様には奮ってご参加いただきたく、ご案内申し上げます。

1. 日 時：2019年1月30日（水）14：00～17：30
  2. 会 場：青山学院大学 青山キャンパス 17号館 17510教室
  3. 参加費：BERC会員企業の方：2,000円
- \* 懇親会は18：00から青学会館1階レストラン「フィリア」で開催します。会費は5,000円です。

## 第27回研究発表大会のお知らせと発表者公募の件

会長 梅津 光弘（慶應義塾大学商学部・准教授）

2019年度の研究発表大会は6月22日（土）～23日（日）の日程で、東京工業大学大岡山キャンパスにて開催予定です。

統一論題は「AI／ロボット時代における経営倫理」と決まりました。AI／ロボット技術は自動車の自動運転、ビッグデータの蓄積・分析などを始め、あらゆる分野でビジネスのあり方、雇用のあり方、ひいては人間社会と技術とのあり方を問い直す契機となっています。その中核の問題群の中に倫理の問題があることは言をまちません。そこでこのテーマのもとに学的、実践的の両面から討論を深める場が持てたらと願っています。倫理、経営を始め工学などの専門家やデータ・サイエンティスト、ロボテック産業の専門家など内外の多くの方々参加を期待しています。

発表を希望される方は別途配布いたします募集要項（JABESウェブサイト <http://www.jabes1993.org/>）にも掲載予定）に従ってご応募ください。

### 【募集要項概要】

1. 応募資格：日本経営倫理学会会員（本年度までの年会費を完納していること）
2. 応募締切：2019年3月1日（金）（1日消印有効）
3. 応募原稿：要旨（800字程度）および予稿（7,000字程度）の電子データと出力原稿4部を提出のこと
4. 応募先：日本経営倫理学会 第27回研究発表大会実行委員会
5. 問合せ先：日本経営倫理学会事務局（[info@jabes1993.org](mailto:info@jabes1993.org)）

## 第161回理事会（2018年9月15日）議事録（要旨）

### 【決議事項】

(1) 新入退会者承認の件  
新入会員12名（正会員9名、学生会員3名）、および退会者7名（正会員）承認。会員数は482名に。

(2) 第10回経営倫理シンポジウムの件  
小方理事より計画概要について説明があり承認。  
(3) 2019年度研究発表大会統一テーマ等決定の件  
梅津会長より提案があり、以下承認された。

日程：2019年6月22日（土）～23日（日）  
場所：東京工業大学大岡山キャンパス  
統一論題：AI／ロボット時代における経営倫理  
実行委員長：札幌順会員（東京工業大学・教授）。

**(4) 学会補助金に関する件**

申請のあったCSR研究部会、ガバナンス研究部会の案件について審議の結果それぞれ申請通り補助金を特別会計から支給することとした。

**【懇談事項】**

**(1) 水谷賞検討委員会発足の件**

「水谷賞検討委員会設置要領」（案）について説明が行われ、意見交換が行われ了承された。

**(2) 論文規程（研究発表大会および学会誌の企画運営と論文審査に関する規程）改正の件**

中野副会長から、論文審査委員長の立場で検討事項と問題点について説明があり、意見交換が行われ、次回理事会を目的に規程改訂案を上程することとした。

**(3) 関連団体に関する情報共有の件**

梅津会長より経営関連学会協議会で理事長補佐に選任されたことが報告された。

**【確認事項】**

**(1) 本年度の理事会/研究交流例会等の開催日程の確定の件**

一旦予定した11月の日程を一先ず11月17日と24日の2日間として早急に決定する。次々回は1～3月の間で日程を絞り決定することとした。

**(2) その他**

蕎麦谷理事（中部地区研究部会長）より資料が配布され、2019年1月12日（土）14時から名古屋外国語大学において中部地区研究部会（トランプ・習近平現象とアリストテレスの再評価）を開催予定であることが説明され、各位への参加招請が行われた。

## 平成30年度年会費納入のお願い

一般の年次総会で決議されました、学会の諸活動を推進する財源としての年会費につき、以下の通り納入をお願いいたします。

- ◇年会費：正会員・1万円 学生・3千円 法人(上場)・5万円 法人(非上場)・3万円
- ◇年会費支払い有無の確認は事務局まで、お問合わせください。
- ◇年会費自動振替のお手続きがお済みでない各位は切替をお願いいたします。

**【学会連絡先：東京事務局】**

〒107-0052  
東京都港区赤坂 1-1-12 明産溜池ビル8階  
Tel 03-6441-0640 Fax 03-6441-0641  
E-mail: info@jabes1993.org  
担当：蟻生常任理事(会報)  
河口常任理事(総務)  
発行：日本経営倫理学会

**編集後記**

今回、4度目の編集のお手伝いをさせていただきました。最近、日産自動車会長の役員報酬をめぐる虚偽記載疑惑が連日報道されています。子会社による住居の無償提供など、どちらかと言えば取締役の利益相反取引として問題視されるケースのように思えます。

これまで名門企業のトップと言え、高い倫理観に裏打ちされた高潔な人物という信頼が市民にあったと思います。しかし今回の事件はそうした信頼を揺るがすものであります。強大な権限をもつ経営トップが、周囲の目を欺いて秘密裡に私腹を肥やすことは容易であり、そうしたモラル・ハザードにいったん陥ってしまうと、外からのチェックは働きにくいことが示唆されました。役員には自ら襟を正すセルフ・ガバナンスが求められる所以でしょう。

今回の一件が役員報酬の過小記載に当たるかどうかはともかく、経営トップはお手盛りがないよう、公明正大な権限行使がより強く期待されることになるのではないかと思います。今年から地元企業の社外監査役を務めるようになったこともあり、あらためて「経営は人なり」の思いを強くしています。

編集担当/理事 高浦康有(東北大学)